

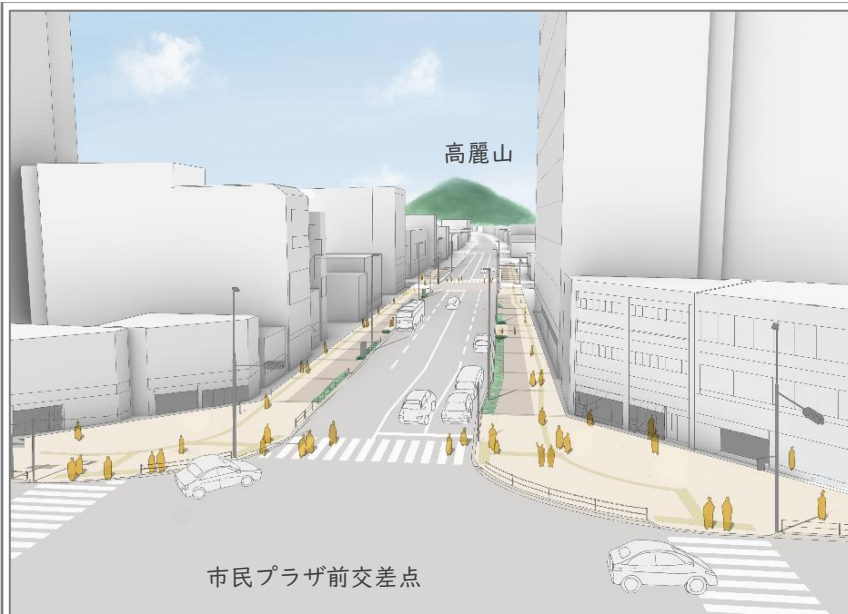
東海道本通り線等景観整備 道路デザインの概要

東海道本通り線は、旧東海道の宿場町（平塚宿）の歴史を有する通りであり、景観形成を重点的に進める区域として平塚市景観計画に定める「景観重点区域 歴史軸」にも位置しております。

沿道の見附台周辺地区で進められている、ひらしん平塚文化芸術ホール（以下「ホール」という）を始めとする様々な施設整備により、地区への来街者の増加が見込まれることから、平塚駅からのメインルートである東海道本通り線と見附町7号線において、良好な道路空間を形成するための景観整備を行うことになりました。

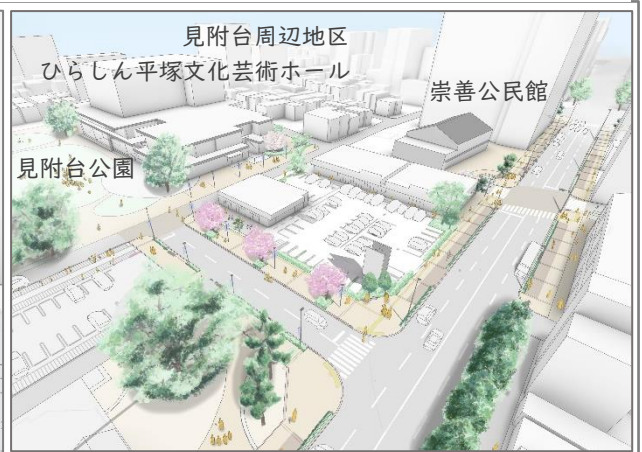
このたび整備区間沿道の皆様を始めとする市民の皆様の御意見を踏まえ、景観整備の道路デザインを作成しましたので、その概要をお知らせいたします。

※本資料の内容は令和3年3月25日時点のものであり、今後の関係機関との協議等により変更になる場合があります。



※既設歩道照明の更新の有無は現在調整中です。

↑イメージパース（下図 視点A） 市民プラザ前交差点から東海道本通り線（高麗山を望む）

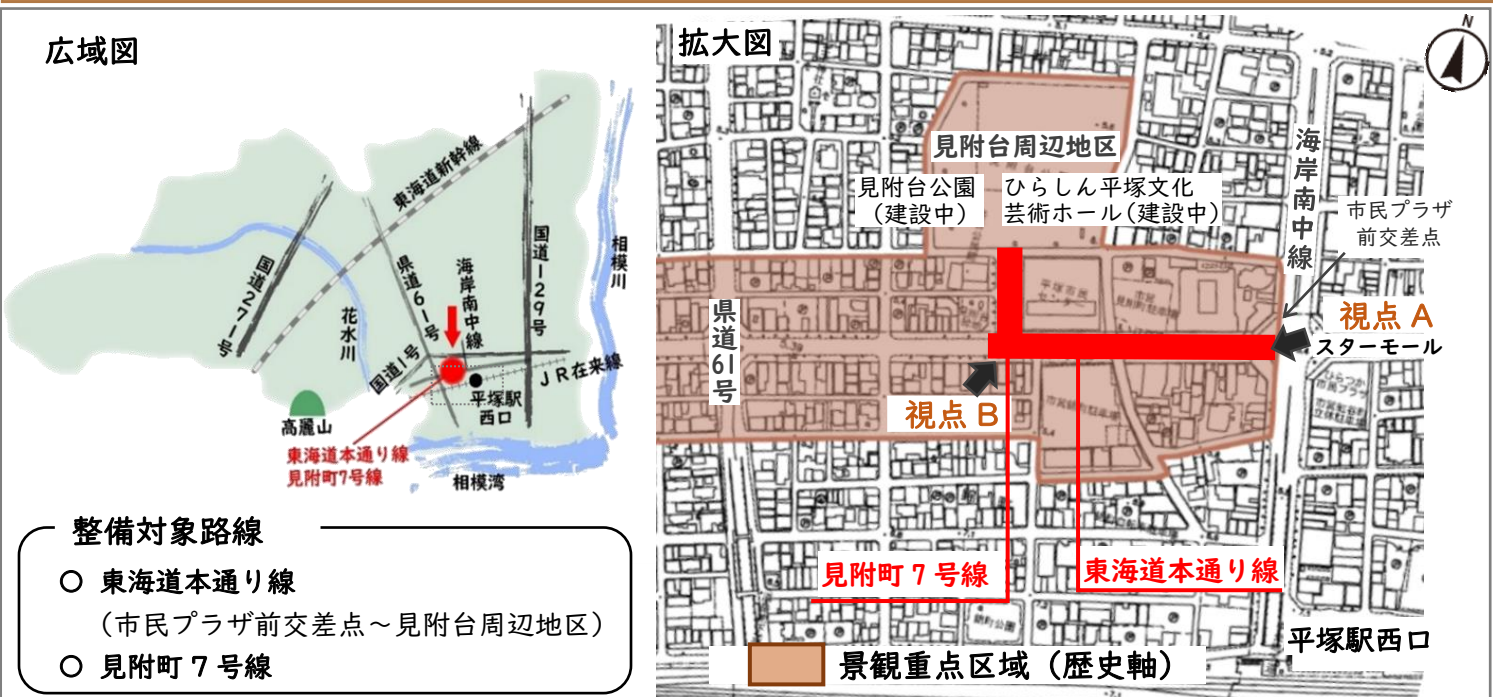


↑イメージパース（下図 視点B）

整備予定箇所 西側から東方向を望む

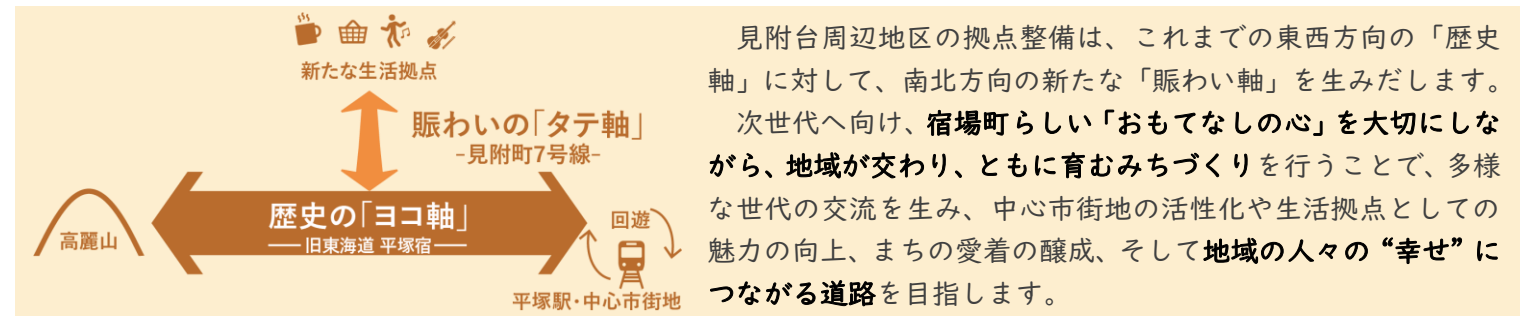
※図中の見附台緑地の計画は別途調整中であり、確定したものではありません。

1. 整備対象範囲

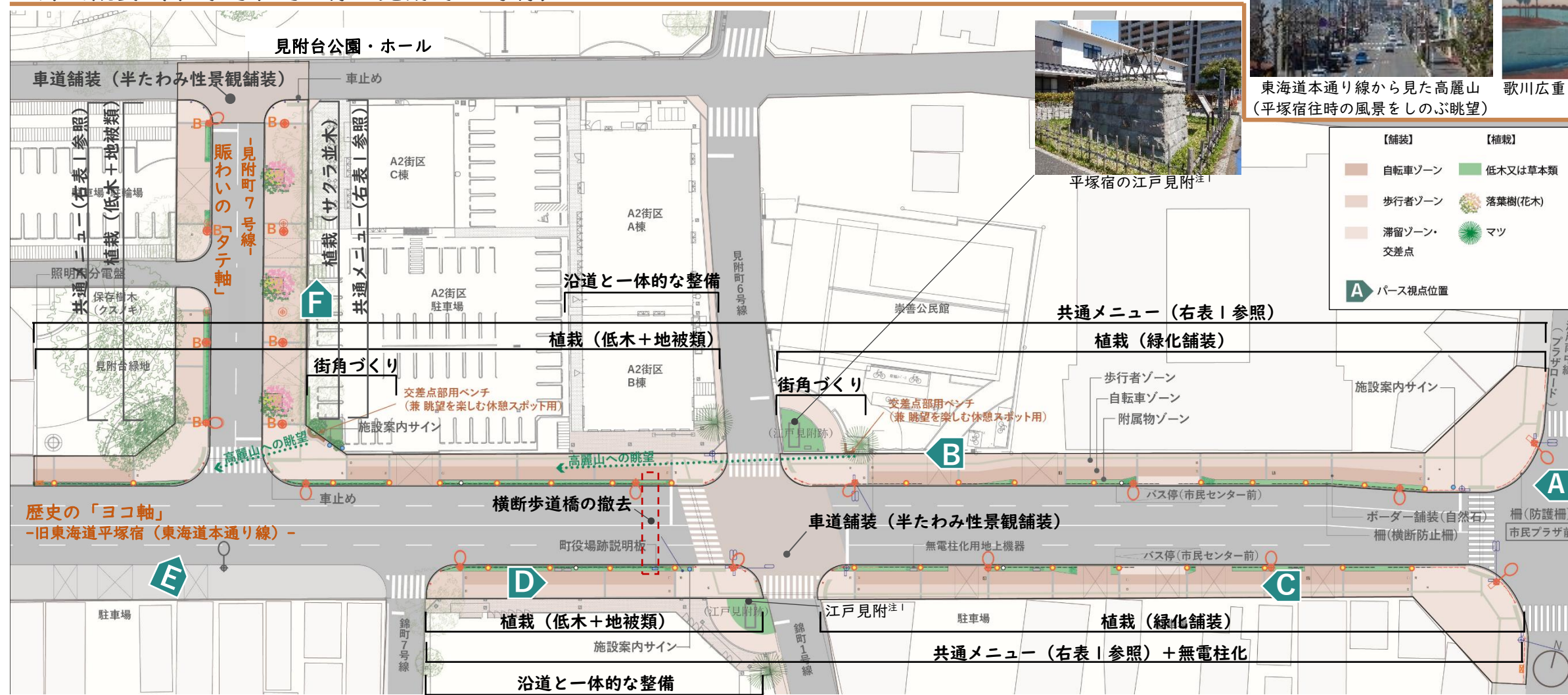


東海道本通り線等景観整備 道路デザイン 概要

2.コンセプト「歴史のヨコ軸」×「賑わいのタテ軸」地域が交わり育むおもてなしのみち



4.計画概要（東海道本通り線・見附町7号線）



➢ ゆったりとした歩行空間、四季を彩る桜並木を設け、人々の安全な移動、見附台周辺地区と一体となった交流・憩いの場づくりを支援する歩道を整備します。

➢ 歩道を狭める横断歩道橋の撤去や、歩行者と自転車の通行位置の明示、透水性舗装等により、誰もが安全で快適に移動できる歩道を整備します。

➢ 無電柱化とともに、舗装、照明、防護柵等のデザインが刷新され、災害時に強く、美しい道路景観を形成します。

➢ 高麗山と江戸見附^{注1}を望み、歴史に思いを馳せながらベンチに座り休憩できる街角を整備します。

3.デザイン方針

- ◆東海道本通り線 “歴史の「ヨコ軸」”
- 方針1：平塚宿の歴史を品よく感じる景観をつくります
 - 方針2：高麗山への眺望を印象的に演出します
 - 方針3：安全・快適に移動や休憩ができる心地よい歩行者空間をつくります

- ◆見附町7号線 “賑わいの「タテ軸」”
- 方針1：見附台周辺地区と一体的な賑わい空間を創出します
 - 方針2：“人”の多様な活動をうむ、心地よい歩行者空間をつくります

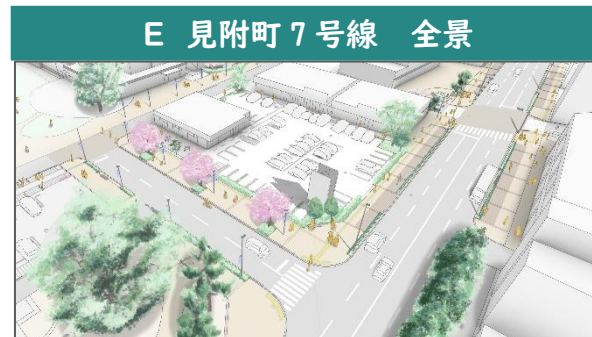


➢ 高麗山への眺望を引き立てる落ち着いたデザインで街並みを整えます。



表1 整備メニュー（東海道本通り線・見附町7号線）

区分	東海道本通り線 整備メニュー
共通	<ul style="list-style-type: none"> 道路デザインの刷新 歩道舗装（地道風ブロック舗装（茶系）、ストリートファニチャーのデザインの統一） 交通安全・バリアフリー対策 （防護柵、歩行者と自転車の通行位置の明示、透水性舗装、視覚障害者誘導用ブロック） 照明・サイン（施設案内・歴史案内）
個別	<ul style="list-style-type: none"> 車道舗装（半たわみ性景観舗装（茶系）^{注2}） 無電柱化、横断歩道橋の撤去 植栽（緑化舗装）、植栽（低木+地被類） 沿道との一体的な整備 （舗装の色彩調和、段差のないフラットな境界） 街角づくり（ビュースポットやベンチ等の休憩施設の整備）



区分	見附町7号線 整備メニュー
共通	<ul style="list-style-type: none"> 道路デザインの刷新 東側歩道の拡幅、歩道舗装（地道風ブロック舗装）、ストリートファニチャーのデザインの統一 交通安全・バリアフリー対策 （歩行者と自転車の通行分離、透水性舗装、視覚障害者誘導用ブロック） 照明（バナーフラッグ付き照明）
個別	<ul style="list-style-type: none"> 車道舗装（半たわみ性景観舗装（茶系）） 植栽（さくら並木）、植栽（低木+地被類）

注1 江戸見附：平塚宿の江戸側の出入口に設けられたものです。現在史料をもとに往時の姿に復元されています。
注2 半たわみ性景観舗装：交通量が大きく景観性に配慮が必要な場所で用いられる耐久性に優れた景観舗装です。表面を自然石に近い粗面仕上げにする機械加工により、自然石の風合いを演出できます。

5. 東海道本通り線のデザイン概要 “歴史の「ヨコ軸」”

方針1：平塚宿の歴史を品よく感じる景観をつくります 方針2：高麗山への眺望を印象的に演出します

高麗山の眺望、江戸見附、通りを歩き楽しむ人々の姿、これらを引き立てる落ち着いたデザインで街並みを整えることにより、平塚宿の歴史を品よく感じる街なみを目指します

平塚宿の歴史や高麗山への眺望が身近になり、住む人の生活風景がより豊かに、訪れる人の街歩きの魅力を高めます。

方針3：安全・快適に移動や休憩ができる心地よい歩行空間をつくります

安全で歩きやすい舗装材の選定、四季を彩る植栽、ベンチやサインを要所に設置し、心地よい歩行空間をつくります。
使いやすさ（バリアフリー・休憩スペース）と歩く楽しさ（眺望・歴史・賑わい）の向上により、生活拠点としての魅力の向上を目指します。

■ 整備メニュー概要

A 東海道本通り線 全景

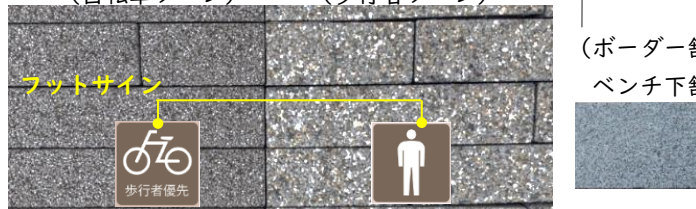


C 東海道本通り線 南側歩道



※この区間の照明計画は今後商店会と調整を行います。

B 東海道本通り線 北側歩道と街角



雨天時にも滑りにくい、天然砂利の風合いを活かした透水性ブロック舗装
天然石ブロック舗装

写真3 採用する歩道舗装材

1 無電柱化・横断歩道橋の撤去

・無電柱化による電柱や電線の撤去、老朽化した横断歩道橋の撤去により、通りから高麗山が眺望しやすくなります。



写真1 電柱電線、横断歩道橋により煩雑な道路景観

2 車道舗装（半たわみ性景観舗装）

・平塚宿の江戸側出入口を示す江戸見附前の交差点部の車道舗装は、自然石の風合いと高い耐久性のある半たわみ性景観舗装（茶系）とします。

・交差点部を周辺部から際立たせ、高麗山と江戸見附の眺望と一体となって、訪れる人に平塚宿の始まりを印象づけるデザインにしています。



写真2 車道舗装（交差点部）に半たわみ性舗装を適用した事例

3 歩道舗装（地道風ブロック舗装（茶系・透水性））

・歩道舗装は、歩きやすさ（安全・バリアフリー）と景観性を兼ね備えた舗装材から選定します。

・色彩は、平塚宿往時の道の風情や周辺環境と調和を重視した地道風（茶系）とし、色あせや変色の少ない天然砂利を使用した自然な風合いの透水性ブロック舗装等を使用します。

・景観のアクセントとなるボーダー舗装や高麗山を眺望するベンチ周りの舗装に、天然石の舗装材を効果的に配置します。

4 ストリートファニチャーのデザインの統一

・照明、信号、標識、柵、サイン類のストリートファニチャーは、高麗山の眺望を引き立て、周辺景観に調和することを重視し、シンプルなデザイン、ダークグレー（景観色）の色彩で統一します。

・すっきりとした道路景観を形成するため、照明、信号、標識類は集約し、柱の本数を減らします。

D 東海道本通り線 南側歩道



（自転車ゾーン） （歩行者ゾーン）



図2 歴史案内サイン（デザインタイル）

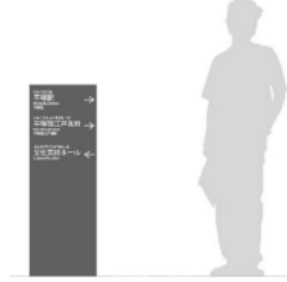


図3 施設案内サイン

B 街角づくり（崇善公民館前交差点）



E 街角づくり（見附町7号線交差点）



5 安全・バリアフリー

・歩行者の安全性の向上のため、歩行者と自転車の通行スペースを舗装材の色や素材、フットサインで区分しています（写真3参照）。
・標準部には横断防止柵を、交差点部には車両の誤進入から歩行者を守る耐衝撃性に優れた車止めを設置します。
・歩道の一部はセミフラット化し（高齢者や車いす、ベビーカーがスムーズに移動できる平坦な歩道）、ホールや公園、公民館への主経路となる歩道には視覚障害者誘導用ブロックを設置します。

6 照明・サイン（施設案内・歴史案内）

・照明は、バリアフリー上の必要な明るさの確保と景観性を両立する計画としています。
・道路や交差点部を照らす道路灯の充実と、歩行空間には落ち着いた和の雰囲気演出する足元灯（電球色）の整備を基本とします。
・街歩き機能の充実のため、周辺の公共施設を案内するサインや、平塚宿の浮世絵をあしらったデザインタイルを要所に設けます。



図1 足元灯イメージ

7 植栽（緑化舗装）・植栽（低木+地被類）

（崇善公民館前の交差点から西側）

・緑や花、紅葉による四季の彩りや、和の雰囲気の演出のため、歩車道境界部には低木と地被類による植栽帯を整備します。

・植栽種は、上記のほか、良好な状態を持続できる低維持管理型に配慮し、ジャノヒゲ、ヤブラン（通年の緑、春の花）、オタフクナンテン（秋の紅葉）とします。



写真4 植栽帯イメージ

（崇善公民館前交差点から東側）

・市の七夕まつり等、道路空間の多様な利用に配慮し、地被植物とブロック舗装を組み合わせた緑化舗装とします。



写真5 緑化舗装イメージ

8 街角づくり（ピュースポットや休憩施設の整備）
沿道との一体的な整備

・街歩き等の休憩ニーズに対応するため、高麗山を眺望できる街角には、来街者が気軽に利用できるベンチを整備します。
・歩道と沿道の店舗前のオープンスペースの境界は、一体的なデザイン（舗装材の色彩調和、段差のないフラットな境界、沿道植栽の緑陰の活用）の設えとし、賑わいある歩行空間とします。

注3 パース視点位置：2頁の平面図中にA～Eのアルファベットで図示しています。

6. 見附町7号線のデザイン概要 “賑わいのタテ軸”

方針1：見附台周辺地区と一体的な賑わい空間を創出します

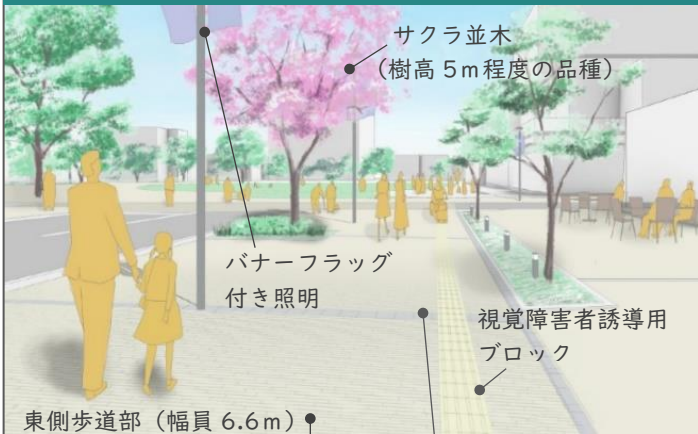
方針2：“人”の多様な活動をうむ、心地よい歩行者空間をつくります

道路デザインの刷新に加え、ゆったりとした歩行空間や四季を彩る桜並木を設け、「楽しむ移動」「楽しむ滞在」に対応した心地よい歩行空間をつくります。

見附台周辺地区へのメイン動線の中に、人々の交流・憩いの場を設け、新たな拠点整備による賑わい創出の効果が地域全体に波及することを目指します。

■整備メニュー概要

F 見附町7号線 東側歩道



天然砂利の風合いを活かした透水性ブロック舗装 (3頁写真3参照)



写真6 バナーフラッグ付きの歩道照明の事例 (横浜市)



車道舗装 (半たわみ性景観舗装)

9 舗装・ストリートファニチャーのデザインの統一 見附台周辺地区との調和や連続性に配慮

- ・東海道本通り線と連続する和を基調とする落ち着いたデザインで舗装や照明、車止め、植栽を整備します。
- ・ホールや公園に向けた期待感の演出のため、バンナーフラッグ付きの照明 (写真6参照) を設置します。
- ・見附台公園前の交差点の車道舗装は、交差点の交通安全対策を兼ねた半たわみ性景観舗装 (茶系) とします。

10 ゆったりとした人にやさしい歩行空間の創出 (安全・バリアフリー、賑わい空間の創出)

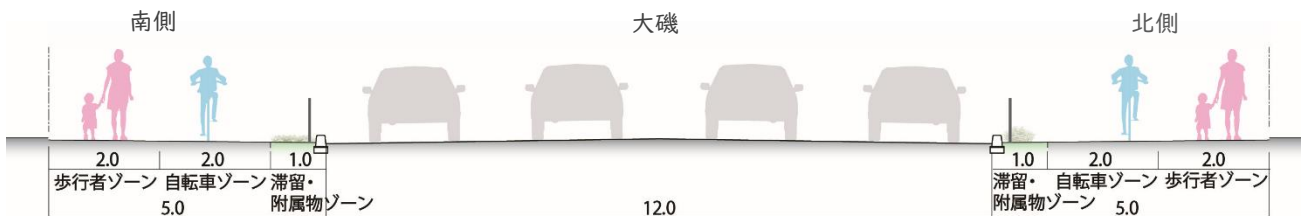
- ・ホールや公園に往来する歩行者のメイン動線として、道路空間の再配分により、東側歩道は幅員 6.6mのゆったりとした安全で快適な歩道を整備します。
- ・また、マルシェや地域交流などの交流・憩いの場としての利用が可能となり、見附台周辺地区と一体となった賑わいに溢れたコミュニティ空間の創出を支援します。

11 植栽 (サクラ並木)、植栽 (低木+地被類)

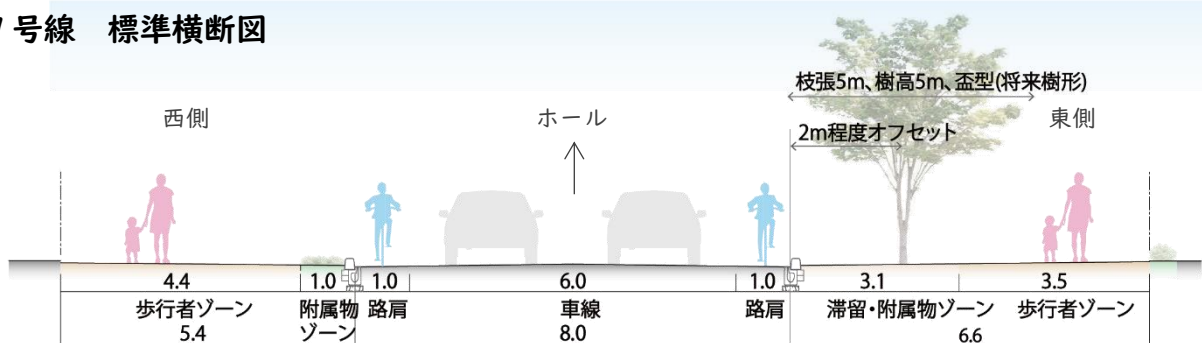
- ・広幅の東側歩道には、春に美しく夏に緑陰で暑さを和らげるサクラ並木を設け心地よい歩行空間を整備します。
- ・西側歩道は、ホールへの眺望を引き立てる低木・地被類中心の植栽帯を設けます。

標準横断図 (東海道本通り線・見附町7号線)

■東海道本通り線 標準横断図



■見附町7号線 標準横断図



注3 パース視点位置 :2頁の平面図中にFのアルファベットで図示しています。